

令和2年度 英文学科 一般推薦試験講評

【出題意図】

題材は「回復力 (resilience)」すなわち「どんな逆境に遭っても、その経験をばねに立ち上がり、楽しく、生きがいを持って生きる力」の大切さを説いたエッセイである。

そもそも人生には失敗や挫折といった試練はつきもので、そういった逆境を経験してこそ人は強くなれるし、この力を持つ人は期待以上の成果を出せる。若いうちに辛い出来事を乗り越えた経験のある人の方が、そうでない人よりも回復力があるとされるが、人生の荒波を経験するなかでも、この折れない心は鍛えられる。年齢を重ねると身についてくる心の中の緩衝材のようなものでもあり、助けを求めたり、逆境をうまく受け流せたり、より前向きになれたりする柔軟性、適応力、強い精神力とともに培われていく。また楽観的であることは、病気や鬱になるリスクを抑える効果もある。そして回復力は後天的に身につけられる処世術でもあり、過去に固執しない、自分にやさしく、社会に目を向ける、自分を信じるといった姿勢をもつことで高められる。

こういったメッセージを正確に読み取る英語力を測ると同時に、この問題を通して都留文科大学の英文学科で学ぼうという学生さんたちにはどんな逆境に遭遇してもポジティブな気持ちで前を向いて生きられる「折れない心」を持って欲しい、という願いを込めて出題した。

問1は(1)(2)ともに英問英答形式にすることによって、本文の内容の理解力とともに英語の表現力を問う問題である。さらにテーマと具体例を関連付ける思考力と判断力も測った。

問2では、まず本文のキーワードとなる resilience の定義をした上で、全体の論旨を正確に要約する能力を問うた。その理解を確かめるために身近な具体例を挙げ、その人の resilience のあり様を説明することで思考の柔軟性と分析力を測った。

【評価のポイントと答案の傾向】

問1

(1)この問題では Eric Dabas の具体例が回復力について何を示しているかを読み取る力が問われているので、まずは Eric が「17歳で事故に遭い、背骨を損傷したことでトラックの運転手になる夢を絶たれるが、プロのパイロットになるという新たな目標を見つけることで絶望から立ち上がった」という事実を捉えたうえで、その具体例から「Ericのように折れない心があれば、どんな逆境にあってもいきいきと生きられることがわかる」という点を指摘することがポイントとなる。答案のなか

には Eric の具体例のみを説明するにとどまったものが散見された。

(2) 折れない心を持っているといきいきと生きられるだけでなくどんな二次的な効果があるかを問う問題だが、この second effect が physical effect であることに気づくかどうかは鍵となっている。その答えが、本文の中盤の Resilient people tend to be more hopeful . . . から始まるパラグラフにあることがわかりさえすれば、比較的平易な問題のはずだが、second effect の意味を取り違えて、的外れな個所の説明を試みている答案も見られた。逆境に負けない精神的な強さがあれば怪我の回復も早く、心臓発作やうつ病も回避できるという、resilience の力を読み取ってほしい。

問2

まずは resilience の定義、the ability to bounce back after big setbacks, and live with joy and purpose を「逆境をバネに立ち上がり、喜びと生きがいを持って生きていく力」などと簡潔に示したうえで、各パラグラフのポイントを要約するように、その内容、特質、利点を 200 字以内の日本語で説明して欲しい。

次に自分の知っている resilient people の具体例だが、その人の遭遇した逆境、それを乗り越えた後の達成、生き様を説明するだけでなく、そこに客観的な分析を加えて欲しい。ここでは本文で書かれた resilience の理解は正しいか、(議論に発展が見られたらプラス。) 具体例と resilience の議論は有機的につながり、相互に生かされているかがポイントとなる。

答案で示された具体例には、主にスポーツ選手や歴史上の人物が挙げられていたが、両親をはじめとした家族や恩師、さらには自分自身など、身近な人物を挙げていた例も多く見られた。どんな出来事に遭遇しても折れない心の大切さを実感していることが伝わってくる答案が多く心強く感じられた一方で、resilience 自体の意味を取り違えてしまったことで、得点につながらない答案も残念ながら見られた。